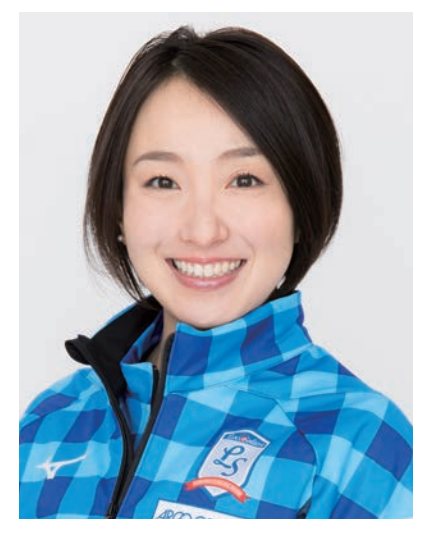


フェアプレイ
インタビュー
[カーリング]
ロコ・ソラーレ所属
藤澤五月選手



プロフィール
生年月日：1991年5月24日
出身地：北海道

2018年
平昌五輪
銅メダル獲得!



た3位決定戦は、緊張よりも楽し
い気持ちで上回っていました！
好きだという気持ち、
楽しい思い出を忘れないで
願っています。

どんなこともポジティブに楽しく

ミス責めるのではなく
原因を考える

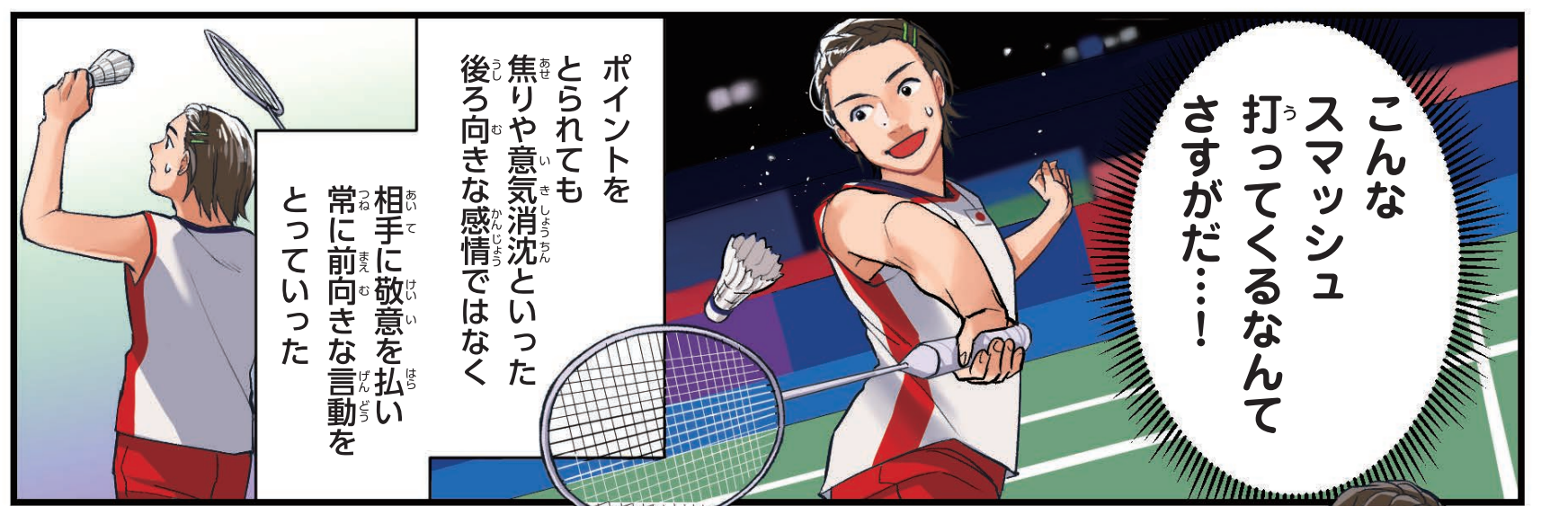
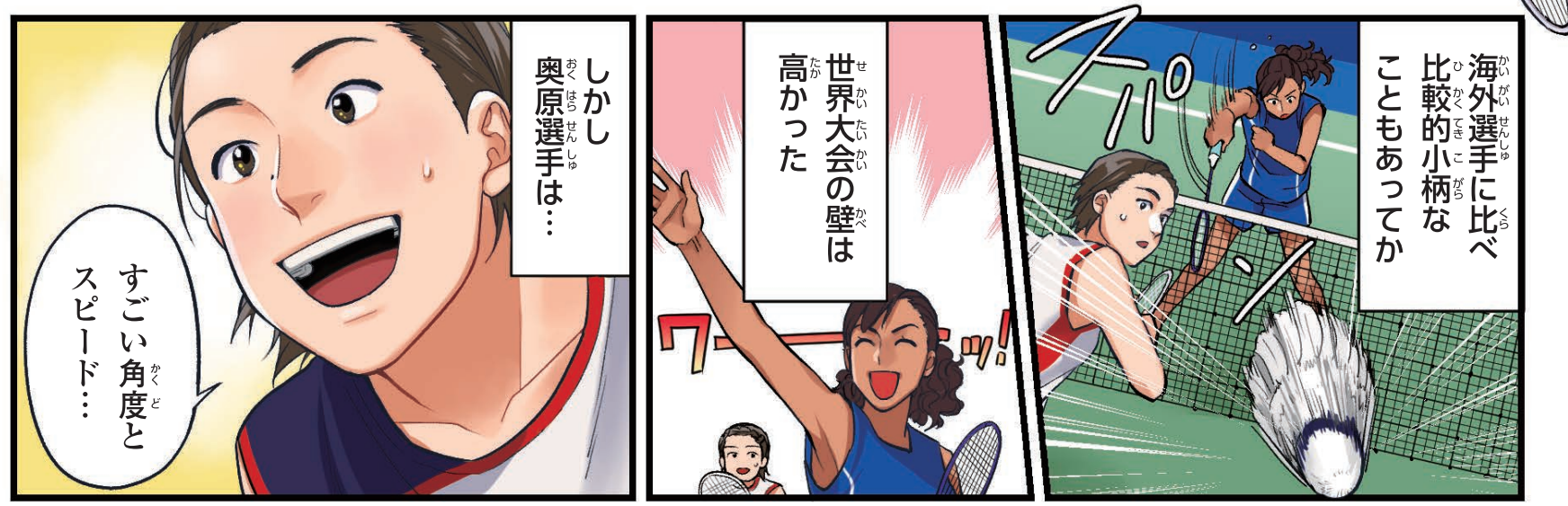
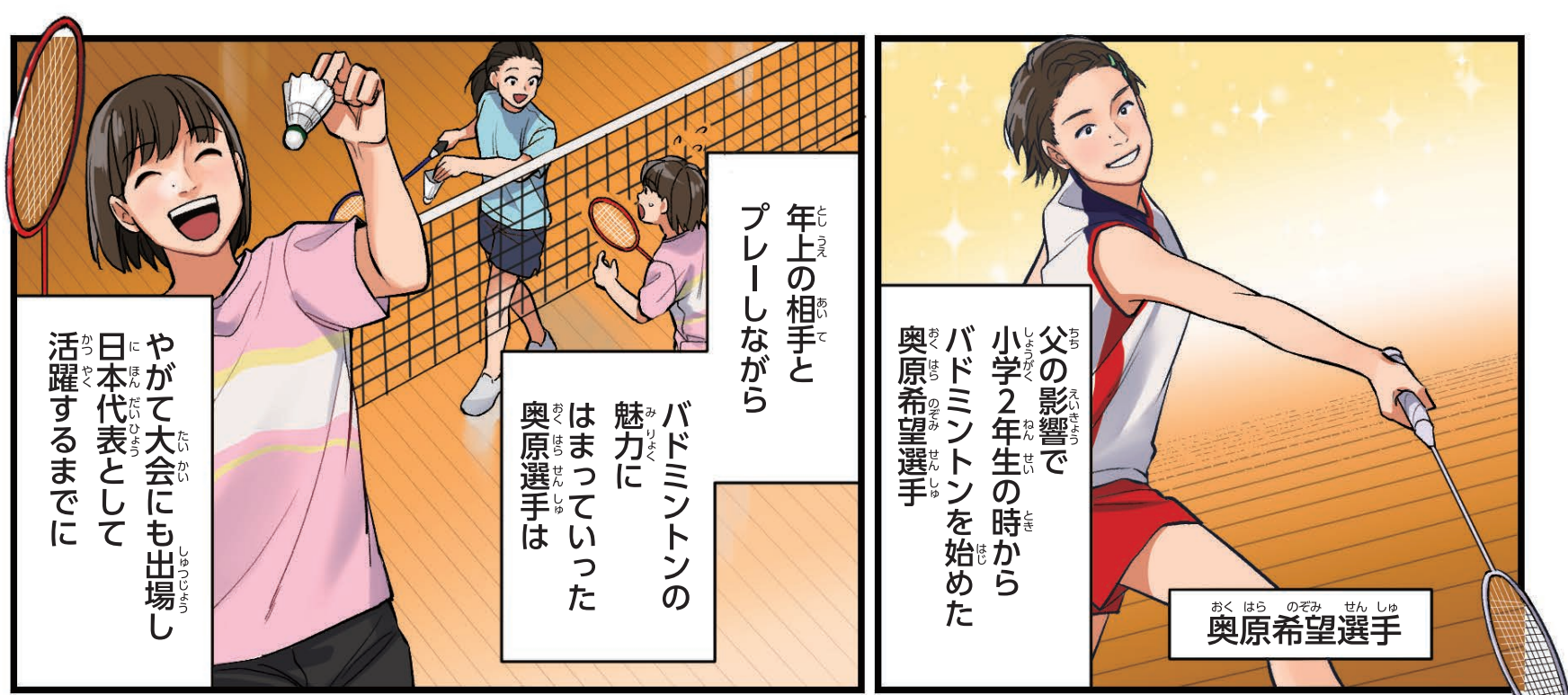
2018年の平昌五輪で、カーリング女子日本代表を銅メダルに導いたのが、スキップ（主将）の藤澤五月選手。スキップはチームの司令塔で、勝負を決める最後の打球を行う重要なポジションです。5歳からカーリングを始めた藤澤選手は早くから世界で活躍してきましたが、すべて順風満帆だったわけではなく、ジュニア時代に大きな転機があったと言います。

「当時、姉と同じチームでした。ある大会で、後半の大事な場面で姉がミスショットをしてしまい、身近な存在というところもあって試合中にもかかわらず怒ってしまっただけです。それがきっかけでチームの雰囲気が悪くなり、試合にも負けてしまいました」
藤澤選手は、この自身の言動を今でも忘れることなく「失敗だった」と反省します。



「ミスをしたくする人はいない。ミスを責めるよりも、原因は何だったのか、次はどう生かすかの方が大事なんだと気付きました」
「平昌五輪・予選ラウンドの終盤、連敗して落ち込んでいた時に応援に来ていた家族と食事をしました。励ましてくれるかと思ったら、みんな韓国旅行を楽しんでいて…。母には『オリンピックに出ていけるだけでも十分じゃない』というようなことを言われたんです。それで、いろいろ悩むより楽しむ方がいいんだと気持ちを切り替えることができました。メダルを懸け

強さの秘訣は対戦相手への敬意



父の影響で小学2年生の時からバドミントンを始めた奥原希望選手

年上の相手とプレーしながらバドミントンの魅力にハマっていった奥原選手は

やがて大会にも出場し活躍するまでに日本代表として

海外選手に比べ比較的の小柄なこともあってか

世界大会の壁は高かった

しかし奥原選手は…

すごい角度とスピード…

こんなスマッシュ打ってくるなんてさすがだ…!

ポイントをとられても焦りや意気消沈といった後ろ向きな感情ではなく

相手に敬意を払い常に前向きな言動をとっていた

ポイントをとられても焦りや意気消沈といった後ろ向きな感情ではなく

バドミントンは相手がいないと成り立たない競技

だから相手を敵ではなく対戦相手としてリスペクトしてるんです

「みんなすごいじゃんあるんだ」とポジティブになっ

どんな時でも相手をリスペクトすることが奥原選手の強さの秘訣なのだ